

第3回 東日本大震災研究交流会

主催：日本社会学会 震災問題情報連絡会
震災問題研究ネットワーク

昨年開催した東日本大震災研究交流会を、今年度も下記のとおり開催いたします。この交流会は、日本社会学会の研究活動委員会を中心に設けられた震災問題情報連絡会を母体に、社会学系の諸学会の連携組織として発展してきました。今年度も、幅広い分野からの参加を歓迎いたします。

今回は東日本大震災に限らず、熊本地震等の甚大な災害の発生をふまえ、災害と社会との関わりや影響を含めて幅広い研究交流が出来ればと思っております。発表者だけでなく、参加して一緒に討論していただける方、社会学者と一緒に議論してみたい他分野の研究者、行政担当者、マスコミ関係者、災害研究に関心をお持ちの方にも参加していただきたいと思っております。

※昨年の研究交流会につきましては、以下リンク先に記載のとおりです。

案内文：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/2016/02/04190350.php>

プログラム：http://www.gakkai.ne.jp/jss/20160314_2.pdf

記

開催日時：2017年3月10日（金）10：00～17：30

開催場所：早稲田大学戸山キャンパス（文学学術院キャンパス）33号館3階

プログラム

9:30～	受付開始
10:00～12:00	第1セッション(原発災害をめぐる諸課題) @第一会議室
12:00～13:00	昼食休憩
13:00～15:00	第2セッション(防災上の課題と公的セクターの役割) @第一会議室 第3セッション(災害過程の健康維持とメディアの可能性／農業復興) @33号館333教室
15:15～17:30	第4セッション(住宅再建・災害復興をめぐる活動と課題) @第一会議室
17:40～18:40	意見交換会 @第二会議室 (あるいは33-333教室)
18:40以降	懇親会

午前の部会 10:00～12:00 (1部会編成／第1セッション)

第1セッション【原発災害をめぐる諸課題】 司会：加藤 眞義 (福島大学)

会場：第一会議室 (33号館3階)

第1報告 高木竜輔 (いわき明星大学)・西田奈保子 (福島大学)・松本暢子 (大妻女子大学)

「原発避難者向け災害公営住宅入居者の生活実態」

第2報告 原田峻 (立教大学)・西城戸誠 (法政大学)

「東日本大震災・福島原発事故から6年の県外避難の現状と課題 ―埼玉県における自治体・避難者調査の知見から―」

第3報告 渋谷和彦 (情報・システム研究機)

「科研費研究最終報告：風評被害による販売ネットワークの崩壊予防とレジリエンス」

第4報告 吉田耕平（首都大学東京）

「災害下経営組織環境と職務士気」

第5報告 日高勝之（立命館大学）

『メタ政治的正義』としての原発・エネルギー議題～フクシマ後の「原発議題」言説の検証必要性～」

第6報告 岩井紀子（大阪商業大学）

「原発避難に関する住民意向調査にみる帰還意識の推移と JGSS-2015 と 2016 による原発に関する意識の推移」

午後の部会 13:00～15:00 （2部会編成／第2セッション・第3セッション）

第2セッション【防災上の課題と公的セクターの役割】 司会：大矢根 淳（専修大学）

会場：第一会議室（33号館3階）

第1報告 室井研二（名古屋大学）

「スマトラ地震後の復興と防災の現状—2016年アチェ調査の予備的分析—」

第2報告 平井勇介（岩手県立大学）・堀籠義裕（岩手県立大学）・阿部晃士（山形大学）・茅野恒秀（信州大学）・金澤悠介（岩手県立大学）

「東日本大震災復興・復興過程で生じる地域社会内の軋轢—津波被災者と地震被災者の隔たり」

第3報告 丸山真央（滋賀県立大学）

「市町村合併が自治体の災害・復興対応にもたらした影響を住民はどのように評価したのか—岩手県大船渡市の場合」

第4報告 山下博之（日本大学）

「自治体間の応援・受援と自治体のレジリエンスに関する考察：アンケート調査をもとに」

第5報告 辻岳史（名古屋大学大学院）

「産業復興における自治体の協働政策」

第6報告 藤田香（近畿大学）・大塚健司（アジア経済研究所）

「災害への備えと地域コミュニティの持続可能性—南海トラフ地震への対応を迫られる高知市の事例」

第3セッション【災害過程の健康維持とメディアの可能性／農業復興】

司会：浅野幸子（減災と男女共同参画 研究推進センター）

会場：33号館333教室（33号館3階）

第1報告 平木繁（首都大学東京大学院）

「熊本地震における民間の避難所支援とその課題」

第2報告 三澤仁平（日本大学医学部）

「東日本大震災以前の精神健康と社会経済状況との関連」

第3報告 石垣尚志（東海大学）

「被災地の復興支援としての映画上映（2）：岩手県沿岸部と宮城県石巻市の事例から」

第4報告 土屋葉子（早稲田大学）

「岩手県三陸地方震災後の取り組み；宮古と田老の2つの活動」

第5報告 近藤誠司（関西大学）

「災害伝承メディアとしての漫画のポテンシャルティ」

第6報告 飯坂正弘（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

「津波来襲地における農業再編の理想と現実」

午後の部会 15:15～17:30 （1部会編成／第4セッション）

第4セッション【住宅再建・災害復興をめぐる活動と課題】 司会：浦野 正樹（早稲田大学）

会場：第一会議室（33号館3階）

第1報告 西野淑美（東洋大学）・石倉義博（早稲田大学）・平井太郎（弘前大学）・秋田典子（千葉大学）・永井暁子（日本女子大学）

「土地区画整理事業のなかでの住宅再建判断 —釜石市A地区住民への質的縦断調査より—」

第2報告 水田恵三（尚絅学院大学）・阿留多伎真人（尚絅学院大学）・内田龍史（尚絅学院大学）・藤本吉則（尚絅学院大学）

「東日本大震災後の復興における行政、支援者、被災者三位一体モデルの検証」

第3報告 松原久（東北大学）・岩尾紘彰（東北大学）・磯崎匡（東北大学）

「大規模移転地のコミュニティ形成に関するモデル地域の現状と課題：東松島市あおい地区を事例に」

第4報告 吉野英岐（岩手県立大学）

「災害復興公営住宅の生活実態と課題—釜石市での調査から—」

第5報告 大堀研（東京大学）

「災害復興過程における住民活動の生成と「受援力」に関する検討：岩手県釜石市の活動団体を事例として」

第6報告 野坂真（早稲田大学）

「長期の社会過程から見る過疎地域の災害復興 —岩手県大槌町における地域の記憶継承をめぐる取り組みから—」

第7報告 小林秀行（明治大学）

『復興の象徴化』に関する研究—東日本大震災における復興スローガンを手掛かりとして—

【意見交換会】 会場 第二会議室(あるいは33-333教室)にて

第4セッション終了後、「今後の震災研究に向けて」をテーマに、今後の研究のあり方や進め方、ネットワークの意義や役割について

て、自由な意見交換をしたいと思います。参加いただける方は、第二会議室にお集まりください。人数が多そうであれば、その場のアナウンスで、少し大きめの 33-333 教室で行います。

【会場案内】

早稲田大学戸山キャンパス 33号館 3階 <https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

(備考)

* 戸山キャンパスは、地下鉄東西線早稲田駅下車徒歩 5 分

(地下鉄早稲田駅からの経路、及び構内地図は、上記 URL を参照してください。早稲田駅から戸山キャンパスへの経路は、穴八幡の神社と交番が角にある十字路が目安になります。)

* 研究会の会場は、戸山キャンパス(文学学術院)で最も高い 33号館の建物の3階です。今回は、3階にある第一会議室と33号館 333 教室をメイン会場にし、第二会議室を控室として使用します。

早稲田大学戸山キャンパス 構内図



【33号館3階】会場案内



【懇親会】

全プログラム終了後、地下鉄早稲田駅近辺で懇親会の開催を予定しております。懇親会の出欠につきましては当日、会場にて報告者・出席者の皆様にお伺いいたします。会場は当日ご案内いたします(会費につきましても当日お支払ください)。

【抜刷交換コーナーについて】

第一会議室内に抜刷交換コーナーを用意いたしますので、ご利用ください。

【昼食】

キャンパス内には、この時期、昼食のできる施設はありません。キャンパス近くには飲食店が多数あり、またコンビニエンスストアなども近くにあります。会場内で食事をしていただいても構いませんので、各自ご用意ください。

【報告者への連絡事項】

*会場にはコピー設備がありません。配布資料などは各自が50部コピーのうえ持参してください。

*報告時間は原則として1報告15分とします。質疑応答については、司会者の判断で適宜設ける予定です。

*会場には、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル(Mini D-Sub15ピン)、及び備え付けのコンピュータが備わっております。なお、Apple社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタも各自でお持ちください。パソコン等を使用する場合には、開始15分前に会場にお越しいただき、各報告・セッション参加者と協力・相談のうえ、接続および動作確認をお願いいたします。

【問い合わせ先】

本研究交流会についての問い合わせは、「東日本大震災研究交流会事務局」までメールでお願いいたします。

(office150315dcworkshop@gmail.com)